

# 昭島駅北口の巨大物流拠点計画

## 「考える会」がGLPに見直し要望

JR昭島駅北口、昭島市つつじが丘にある昭和の森ゴルフ場などの跡地に「日本GLP」（港区、帖佐義之社長）が大規模物流センターの建設を計画していることについて、交通量の増加や自然環境の悪化を心配する市民らが5月に「昭島巨大物流センターを考える会」（現在155人）を発足し、同社に計画の見直しを求めるとともに、昭島市に対しても都市計画の観点から考えを質すなどの活動を展開している。同市議会9月定例会の一般質問でも複数の議員らが昭島市に「市民の不安に市も積極的に関与を」と求めた。（山本哲也）

### 市民ら「交通渋滞、環境悪化懸念」

### GLP「4千人雇用、経済貢献も」

計画地は駅北側に広がる緑豊かなゴルフ場や代官山緑地などがある土地約59万平方メートル。駅前は大規模商業施設や文化・スポーツ施設、市民会館などがある昭島の中心地だ。大規模多機能型物流施設「GLP ALFALINK昭島」として高さ35〜55メートル、4〜7階建ての物流施設6棟、終日稼働する高さ約40メートルのデータセンター9棟、高さ約20メートルの複合施設1棟と計約5千台の駐車場などが計画されている。交通量は一日大

型車約1100台、普通車は一日4700台を想定。ピーク時には約5500台の交通があるという。

今年2月の同社の説明会を経て計画を不安視する住民が集まって5月に発足した「昭島巨大物流センターを考える会」（大竹雄二、長谷川博之共同代表）では、「周辺には保育園などもあり、交通事故や交通渋滞、大気汚染も懸念される。貴重な緑地がなくなり高い建物で陽当たりや風通しが悪化し、玉川上水

周辺の環境悪化も大きな不安がある」とし、同会共同代表の大竹さんは「撤退も含め計画の見直しを求めて署名活動もしていきますが、GLPには今後、市民がこの地域をどのようにしていくかをしっかりと説明することをお願いしたい。昭島市も市民がこれだけ不安に思っている問題にもっと積極的に取り組んでほしい」と話している。

一般質問で林まい子氏、青山秀雄氏（以上、みらいネット）らの質問に市は「現在のところ説明会で事業者から示された以外の情報はないが、市としても事業者に働きかけていきたい」と答弁。林氏は「多くの市民が不安の声を上げている。水と緑のまちを掲げている昭島市の問題として、民間の事業なので市は何もできないということではいけない。しっかりと昭島のまちづくりへの市民参画を担保してほしい」と話した。

考える会は同社に6月、きめ細かな説明と意見聴取の機会を求め要望書を提出。同社は7月、「意見を参考に、2023年3月に予定している東京都環境影響評価条例や昭島市宅地開発条例に則った説明会の開催に向け、今後詳細計画を検討していく」と回答した。考える会では「多くの質問に対してこれからの調査や協議を検討中との回答で、この計画が住民の懸念事項に対して十分な検討や調査、行政との協議などが未了のまま進められていると言わざるを得ない」とし「引き続き対話を続けたい」との考えだ。大竹さんは9月30日の同会の集まりで「実感するのは平穏な生活が乱されて昭島市が大きく変わってしまうという」と話した。

GLPは「GLP ALFALINK昭島」と名付けた同事業について「企業や周辺から人が集まりコミュニティやビジネス機会が創出される施設を軸にしたまちづくりへの貢献を目指す」とし、東京西部を「先進物流施設の割合が低く旺盛な需要が期待でき、国道16号や中央道、圏央道へのアクセスもよく広域配送とエリア配送のテナントニーズも期待できる恵まれた立地」として「雇用確保にも優位性があり、4千人の雇用創出を見込んでいる。昭島市の経済にも貢献できる」としている。GLP昭島プロジェクト推進室では、取材に「今後、周辺の住民の皆さんへの説明会を準備していく」との考えを示した。同推進室によると、「ALFALINK昭島」は、大規模多機能型物流施設開発であるALFALINKとして同社の国内4番目、都内初の事業となり、住民の強い場や防災施設も準備するという。着工は2024年4月、全体の完成は2028年〜2029年ごろを目指している。

交通量は一日大

型車約1100台、普通車は一日4700台を想定。ピーク時には約5500台の交通があるという。

今年2月の同社の説明会を経て計画を不安視する住民が集まって5月に発足した「昭島巨大物流センターを考える会」（大竹雄二、長谷川博之共同代表）では、「周辺には保育園などもあり、交通事故や交通渋滞、大気汚染も懸念される。貴重な緑地がなくなり高い建物で陽当たりや風通しが悪化し、玉川上水

周辺の環境悪化も大きな不安がある」とし、同会共同代表の大竹さんは「撤退も含め計画の見直しを求めて署名活動もしていきますが、GLPには今後、市民がこの地域をどのようにしていくかをしっかりと説明することをお願いしたい。昭島市も市民がこれだけ不安に思っている問題にもっと積極的に取り組んでほしい」と話している。

一般質問で林まい子氏、青山秀雄氏（以上、みらいネット）らの質問に市は「現在のところ説明会で事業者から示された以外の情報はないが、市としても事業者に働きかけていきたい」と答弁。林氏は「多くの市民が不安の声を上げている。水と緑のまちを掲げている昭島市の問題として、民間の事業なので市は何もできないということではいけない。しっかりと昭島のまちづくりへの市民参画を担保してほしい」と話した。

考える会は同社に6月、きめ細かな説明と意見聴取の機会を求め要望書を提出。同社は7月、「意見を参考に、2023年3月に予定している東京都環境影響評価条例や昭島市宅地開発条例に則った説明会の開催に向け、今後詳細計画を検討していく」と回答した。考える会では「多くの質問に対してこれからの調査や協議を検討中との回答で、この計画が住民の懸念事項に対して十分な検討や調査、行政との協議などが未了のまま進められていると言わざるを得ない」とし「引き続き対話を続けたい」との考えだ。大竹さんは9月30日の同会の集まりで「実感するのは平穏な生活が乱されて昭島市が大きく変わってしまうという」と話した。

GLPは「GLP ALFALINK昭島」と名付けた同事業について「企業や周辺から人が集まりコミュニティやビジネス機会が創出される施設を軸にしたまちづくりへの貢献を目指す」とし、東京西部を「先進物流施設の割合が低く旺盛な需要が期待でき、国道16号や中央道、圏央道へのアクセスもよく広域配送とエリア配送のテナントニーズも期待できる恵まれた立地」として「雇用確保にも優位性があり、4千人の雇用創出を見込んでいる。昭島市の経済にも貢献できる」としている。GLP昭島プロジェクト推進室では、取材に「今後、周辺の住民の皆さんへの説明会を準備していく」との考えを示した。同推進室によると、「ALFALINK昭島」は、大規模多機能型物流施設開発であるALFALINKとして同社の国内4番目、都内初の事業となり、住民の強い場や防災施設も準備するという。着工は2024年4月、全体の完成は2028年〜2029年ごろを目指している。